

ほっかほっか

かわにししいつほいくしよじょうほうし
 川西市立保育所情報誌



秋号
あきごう

平成 21 (2009) 年 9 月 14 日 No.14

編集・発行 川西市こども部保育課
 TEL (072) 740-1175 (直通)
 FAX (072) 740-1339

いえ なか きけん 家の中には、危険がいっぱい！！

ーリビング編ー



お家の中に、
 危ないところはない
 かしら？



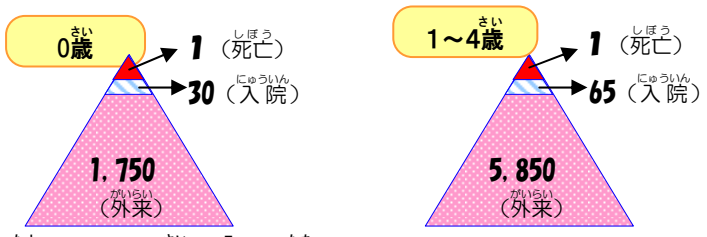
(子どもに安全をプレゼント「事故防止支援サイト」より引用)

これは、リビングルームのイラストです。くつろぎの空間である居間。家族が集い、リラックスする場だからこそ、おとなが日常使うものがたくさんあり、子ども達にとっては危険になることもあります。このイラストには、子どもの事故が起きやすく、危険な箇所がいくつかあります。ご一緒に、危険だと思うところをチェックしてみませんか？！



エッ〜!! 子どもの死亡原因の多くを占めるのは「不慮の事故」なんですって!

1年間に0歳では4人に1人、1~4歳では3人に1人がお医者さんを受診するような事故にあい、痛い思いをしています。



例えば、1~4歳の子ども達は、1人の死亡事故の背景には65人の子ども達の入院があり、5,850人が病院を受診するような事故にあっているといわれています。

(「保育園における事故防止と危機管理マニュアル」より引用)

子どもの好奇心は、おとなの想像力をはるかに超えています。そして、その好奇心が思わぬ事故につながります。1歳から4歳までの子どもの死亡事故の多くは、偶然の出来事ではなく、**予防可能**なものがほとんどなんですよ。

危険だと思う箇所は、
 見つかりましたか？



この指と〜まれ!



ほいくしょ じんき 保育所で人気のあそびや絵本の紹介コーナー

こんごう は、おやこ 今号は、親子で「ふれ合いあそび」の紹介

赤ちゃん目と目が合ってにっこり笑ってくれると、私たちはとても幸せな気持ちになりますね。楽しみにしていた赤ちゃんとの暮らし……。ところが始まってみるとわからないことや不安なことだらけで、“かわいい”“大好きだよ”と思っているのに、日々赤ちゃんの世話と家事に追われ、睡眠さえ十分にとれず、気づくとストレスで気持ちがいっぱいになってしまっ。というようなことはありませんか……?



「あなたのことが、大好きなのよ……」その想いは伝わります。赤ちゃんは肌で、そのメッセージを感じています!!

私たちは、子どもが「おなかが痛い」と訴えると「どれどれ?」と言っておなかをさすり、「頭が痛い」と言うとおでこに手を当てます。すると訴えた方は気持ちがちょっと“ほっ”としますよね。

このように、私たちは気づかないうちに、肌と肌をふれ合うことでメッセージを送ったり受けとめたりしています。



赤ちゃんも同じで、“あ〜ん(>_<)”と泣いている時に、“よしよし”と抱き上げてあやすと、原因は別にあっても次第に泣きやんだり収まったりします。それは言葉をよく理解できなくても、“だいじょうぶだよ”というメッセージをしっかりと感じ取っているからです。

最近、様々な研究が進む中で“肌は露出した脳である”と言われるほど、肌への刺激が脳を育み、情緒の安定につながるのことがわかってきました。抱っこなど、十分なスキンシップを受けて育った子どもは、かつて言われたような「わがままになる」ということはなく、むしろ、乳幼児期にたっぷりとスキンシップをしたほうが、受け入れてもらえた安心感から自分に自信を持ち、依存心を減少させ自立心を育てることにつながると言われています。



赤ちゃんのお世話は、毎日同じことのくり返しで赤ちゃんからの応答も少なく、一見一方的な関わりを感じてしまいがちですが、目に見えるような反応は少なくても、赤ちゃんは、実は自分に向けられている心地よい働きかけを“愛情”としてしっかりと受けとめ、心の中にたっぷりと貯めこんでいるのです。そして、親子の絆を強め、子どもの心理的な安心感を育てていきます。



スキンシップが大切なのはわかるけど、家事に追われて、とてもそんな余裕なんて……

“時間を作ろう!”と気負わなくても大丈夫……。

授乳する時に抱っこして赤ちゃん視線を合わせながら飲ませたり、おむつ換えのときに、おなかや足などをさすったり、「いい気持ちになったね〜。」と語りかけたりする。毎日の育児そのものが“ふれ合い”です。

赤ちゃんにとっては、とっても心地よいことなんですよ。



スキンシップを深めたい! そこで……「身体にふれ合うこと」を!

「だっこする」「添い寝する」「母乳を与える」などの育児の中で自然に行う“ふれ合い”(スキンシップ)を通して、情緒が安定してくるようになります。そして、子どもと「手をつな

く「身体にふれる」など、日常のさりげない行動や遊びの中でも、意識的にふれ合う機会を増やしてあげることが、人への信頼の基盤を高め、人と協調して何かをしていくコミュニケーション能力や、人間関係の基礎となる社会性を育てることにつながります。

保育所では、「ふれ合い」（スキンシップ）を通して、子ども達が「注目されている」「大切にされている」「愛されている」と感じることができるよう遊びを「ふれ合いあそび」と呼び、保育の中に多く取り入れています。

ちょっとした時間に、家庭でもできる遊びがありますので、チャレンジしてみませんか？



あそびたいとおもっても、なんだか気恥ずかしくて～。

いつもニコニコしてられないわ～。

心のこもった働きかけと一緒に笑い合うことが、重要なんです！！

例えば、「なでなで」したり「かいだんのぼ～って こ～ちょこちょ♪」「いない いない ばあ～」というようなことをしてみたいかがでしょう。呼びかけること、歌うことや話しかけることなど、あやし方の上手下手は、子ども達にとって重要ではありません。

「あなたのことが大好きよ」という想いが伝わるのが大事なのです。

日本には昔から「くすぐりあそび」があります。くすぐることは、「ふれ合い（スキンシップ）」を自然に促し、人間関係をより親密にする効果が大きい遊びです。くすぐる時は、くすぐられる人だけでなく、くすぐる側も必ず笑顔になります。人は笑うことでストレスが発散され、気分が良くなったり、自然に身体がリラックスしていきます。

こんな遊びいかがですか？

♪ぞうきんしぼり♪

①は～りに い～とをとおしましょ♪

子どもを寝かせ、頭の上から足先まで両手でサア～となでます。



②千ク千ク 千ク千クめったなら

足先から、頭まで人差し指でつつく。

③ぞ～うきんの できあがり

頭から足先まで両手でサア～となでます。



④あ～ら～って

両足首を持って、ゆらす。



⑤し～ほ～って

持っている足首を交差させます。
④⑤を2～3回くりかえします。



⑥ふ・き・ぞ～うじ！

くすぐります。

保育所で人気の「ふれ合いあそび」です。

決まったメロディはありませんので、唱えながら、身体にふれてあげてください。子どもさんによってソフトな関わりを好んだり大胆な刺激が好きだったり、好みは様々です。お気に入りのやり方を見つけてみてくださいね！（伝承遊びなので歌詞や遊び方がちがっている場合もあります。）

ちゅーちゅー

くりかえすことによって・・・わが子が期待するような表情を見せるようになるとしめたもの！

きっと、お母さんも、親子ですぐず時間を楽めるようになりますよ。

あわただしい毎日ですが、笑い合える時間を持って、お母さんも気分転換しながら、お子さんとの毎日を楽しくすごしていただきたい・・・！と思います。